

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて 73

### 外部指導員の活用例 柔道

町田市立塚中学校 教諭 向井 美幸

本校は、東京都西部の多摩地域にあり、川を隔てて隣は神奈川県という県境に位置し、従来からの住民と新興住宅街の住民が混在する地域にある。近年は徐々に生徒数が減少し全校で約600名となっている。生徒は従前に比べれば落ち着いた学校生活を送っており、部活動等にも意欲的に取り組んでいる。なお、以前より武道館があり、剣道部は活動しているが、柔道部はない。

町田市では、平成24年度から中学校保健体育の授業における外部の補助者の活用を制度化した。本校は、先行実施校として活用を推進し、本年度で3年目になる。本校における柔道授業の取組を紹介したい。

#### 1 町田市中学校柔道 授業補助者制度

町田市では、武道必修化に伴い平成24年度から外部の中学校柔道授業補助者の配置を制度化して予算を配当している。本校は、その先行実施校として活用を推進し、3年目になる。補助者の条件は、「柔道有段者であること」「柔道授業においては、あくまでも保健体育科授業を行う教科担当教員の補助として技の模範を行うこと」となっている。従って多くのところで行われているようなチームテ

#### 2 授業補助者活用 いたった経緯

本校では、学習指導要領改訂に伴う武道の必修化に伴い、平成24年度より女子1・2年生に柔道の授業を行っている。もともと、男子生徒に柔道を選択して授業を行っているおり、柔道着や畳などの用具が揃っていたことから柔道を選択するに至った。

#### 3 教員と授業補助者の役割分担

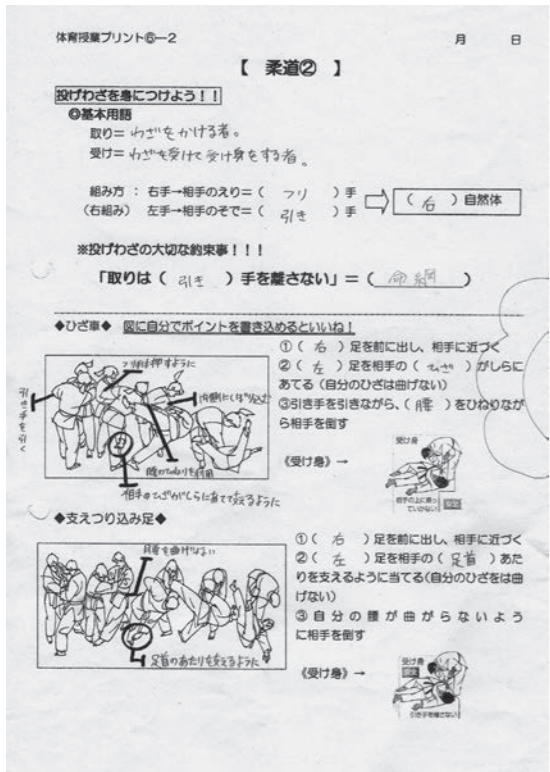
町田市教育委員会が行っている柔道授業補助者の設置の取組では、補助者は、保健体育授業を行う教科担当教員の補助として技の模範や助言等を行うことを基本としている。そのため、本校でも教員が主となり、授業を展開した。補助者には助言を求めながら、

#### 4 指導の概要

本校では、保健体育の授業において、2クラスを男女に分け、男女別の授業を実践している(次頁表1「実施形態・時期・場所等」)。柔道の授業では、柔道着は学校で用意した物を着用し、武道場に畳を敷いて、授業を行っている。今回、紹介するのは平成25年度の実践で第2学年女子生徒の授業である。この生徒たちは、1年次に7時間、柔道を学習している。柔道を初めて学習する生徒がほと



授業の様子



授業用プリント

本校の保健体育科は4人体制であり、それぞれ、武道・ダンスの専門家ではない。特に女性教員には武道の指導経験がなく、単元計画を立て、授業を一人で実践していくには力量と経験不足があり、不安を感じていた。そこで、町田市教育委員会が制度化した柔道授業補助者設置の取組を導入し、平成24年度は男性、平成25年度は女性を活用して、教員と授業補助者の2人体制で柔道の授業を行った。

体育授業や大学の授業でも柔道を経験したことがなく、武道の必修化に伴う実技研修の際、初めて柔道着を着たという全くの初心者であった。生徒に柔道の授業を実施するまでに、研修会を通して何度か学んだだけであり、とても生徒に技術指導ができる自信もなかった。また、柔道の授業における事故や安全指導の話も聞いてさらに不安が大きくなった。

そこで実際に授業補助者の先生が来て下さることはとても心強く、その存在はとても大きくあり

表2 指導計画（平成24年度 1年生女子 計7時間）

時間	主な指導内容
1	・導入（柔道衣の着方・礼法の確認） ・後ろ受け身、横受け身
2	・受け身（後ろ・横） ・けさ固め
3	・受け身（後ろ・横） ・けさ固め、横四方固め
4	・受け身（後ろ・横） ・横四方固め、上四方固め
5	・受け身（後ろ・横） ・固め技の復習、抑え込みゲーム
6	・受け身（後ろ・横） ・固め技の復習、抑え込みゲーム
7	・実技テスト ・まとめ（相互評価、学習の振り返り）

表3 指導計画（平成25年度 2年生女子 計10時間）

時間	主な指導内容
1	・導入（柔道衣の着方・礼法の確認） ・1年次の復習（後ろ受け身・横受け身・けさ固め・横四方固め・上四方固め）
2	・受け身（後ろ・横） ・固め技に対する防御 ・背中を合わせた状態からの抑え込みゲーム
3	・受け身（後ろ・横） ・固め技の連絡（けさ固め→横四方固め、横四方固め→上四方固め） ・固め技の攻防
4	・受け身（後ろ・横）、固め技の攻防 ・投げ技の基本動作と約束事の確認 ・投げ技：ひざ車（両ひざ立ちの姿勢で）
5	・受け身（後ろ・横）、固め技の攻防 ・投げ技：ひざ車（立位の姿勢で）、支えつり込み足
6	・受け身（後ろ・横・前回り）、固め技の攻防 ・投げ技：支えつり込み足、大腰（導入）
7	・受け身（後ろ・横・前回り）、固め技の攻防 ・投げ技：大腰
8	・受け身（後ろ・横・前回り）、固め技の攻防 ・投げ技：大腰
9・10	・実技テスト ・まとめ（相互評価、学習の振り返り）

表1 実施形態・時期・場所等

	平成24年度	平成25年度
授業の形態	1クラスを男女別に分け、2クラス合同で男女別習	
授業の実施時期	12月上旬～1月下旬	12月上旬～2月中旬
対象学年	1年生女子	2年生女子
場所	武道場	
道具	学校の柔道着を貸出	
単元の授業時間	7時間	10時間

## 5 指導の実際

平成25年度の2年生女子に対して行った計10時間の指導の実際を紹介する。

### ◆単元の導入（1時間目）

単元の1時間目では、1年次で学習した内容の復習を中心に導入を行った。昨年、授業で学習したとはいえ、1年間全く柔道に触れることがなく、学習経験が浅いため、一から教えるつもりで指導

らであり、授業開始前のアンケートでは、柔道に対して、「痛い」「怖い」というイメージを持った生徒が多かったため、1年次では、礼法や受け身、固め技の学習を中心に、柔道というスポーツの特性に触れることと、基本動作の習得を目標に授業を行った。2年次では、1年次で身につけた内容を活かし、さらに柔道の楽しさを味わってもらうため、投げ技に挑戦させた。

することを心がけた。柔道衣の着方、帯のしめ方から、礼法を一通り復習した。特に、礼法については、形ばかりにこだわってしまうと、生徒にとっては「やらされている」と感じてしまい、苦痛になってしまうことがある。そのため、授業補助者に柔道の特性を説明してもらい、柔道における礼法の重要性を考えさせることを意識して行った。身体を制することで勝敗を決するという格闘的性質の高い競技だからこそ、授業の開始時には、気持ちを落ち着かせ、集中を高めること、自分や仲間の安全に常に気を配り、一緒に学習し合う仲間に対して、互いを尊重する態度を大切にしたい。礼法という「形」にしっかりと「心」を入れることを大切にすることで、自らしっかりと礼法を身につけるという態度を養った。



固め技の指導

### ◆単元の前半（2・3時間目）

単元の前半では、1年次に身につけた固め技の基本動作を用いて、技を「かける」「応じる」といった攻防の楽しさを味わう授業を展開した。1年次は、基本動作を身につけることが中心だった

め、技を防ぐこと、相手が技から逃れようとすることを利用し固め技の連続の技術（固め技の連絡）を用い、さらに違う技をかけるという攻防を行った。授業補助者と教員が組んで見本を見せると、生徒たちは、柔道の攻防の楽しさを直に感じ、意欲・関心が高まった。また、生徒自身で攻防を行い、柔道の特性に触れ、楽しさを

感じていた。

### ◆単元の中盤後半（4～7時間目）

単元の中盤から後半にかけては投げ技の練習に入った。今まで以上に安全に気をつけさせること、そして段階的指導を行うことを心がけた。例えば、ひざ車では、受けは、立ちひざの状態から投げら

れるという練習を十分にくり返した上で、立位の姿勢で投げられるといったように段階的に練習することで、基本動作をきちんと身につけ、生徒の恐怖心を取り除いていった。指導する投げ技については、生徒の技能や実態に合わせて、授業補助者と相談し、どの技を行うかを決めていった。また、授業補助者

から、技のポイントを分かりやすく丁寧に教えていただき、正確な示範を生徒に見せていただいたことで、「自分もあんな風に技をかけてみたい」という生徒の意欲につながった。

### ◆単元の後半（8～10時間目）

授業補助者と、毎時間意見交換を密に行い、連携を図ることで、生徒の実態に合った、段階的な指導が可能となった。単元の後半では、思い切り投げ技をかけ、応じることが安全にできるようになった。また、実技テストの評価方法についても、アドバイスをいただき、教員の評価と照らし合わせながら、評価することにより、より客観的な評価が行えた。

## 6

### 柔道授業補助者の活用の成果と課題

(1) 成果  
① 専門性の高い技術指導と模範により、生徒の意欲・関心が高まった。



道徳の授業として赤塚さんに講演をお願いした



赤塚さんとの交流の中で生徒の人としての成長も実感した

25年度に本校に来ていただいた補助者の赤塚正美さん（講道館五段）は、弱視という障害を抱えながらも柔道に携わり、パラリンピックにも出場された経歴の持ち主であった。そのことから、柔道の授業だけでなく、道徳の時間においても補助者の方の経験や生き方

7  
その他の活用

から、生徒が学ぶことがあるのではないかと考え、道徳の時間でも協力していただいた。

実際には2時間の授業の中で、1時間目に障害に対する理解を深め、2時間目に補助者の方から体験談や経験してきたことなどを話していただいた。そのことにより、障害を持った人への理解や、補助者の生き方などから生徒たちは、様々なことを学ぶことができた。

道徳の授業の感想では、「赤塚さんの話を聞いて、どんなにうれしいことがあっても、自分も一生懸命生きていきたい」などと書いている生徒が多かった。また、柔道の授業の感想でも、「柔道を教えてもらったことはもちろん、赤塚さんとの出会いを通じて柔道の技能だけでなく、たくさんの方を学んだ」と書いていた生徒が多くあり、ただ、単に柔道の技術指導だけでなく、補助者の方との心の交流を通じ、生徒たちが、人としても成長できたことが、今回補助者を活用したことの一番の成果ではないかと思う。

◆授業のふり返り◆

日付	ふり返り（学んだこと・感じたことなど具体的に）	できるようになった技
1/16	立派な状態で技を返すのは最初不安だったので、受身を返して練習した。	ひざ車
1/20	けす固めから横四方回めにうつる練習をした。相手が腕に重くしている状態で技を変えて、おはしをつるのが大変でした。	返りつり足
1/23	大腰をやってみて、人をかくというよりは、自分や相手かけたいという責任をもつやることが大切だと思いました。また、それからほとんどの技をやると、腕が痛くて練習しにくい。	大腰（右足をひかす）
1/27	今日は新しい受け身を練習した。自分はE組の子にPEをやった時と同じように、軸となる足から足を定めておいて、不安定な受け身を返すことになったので、次回、気をつけて。	前回の受け身
1/30	次回のテストに向けて、固め技の練習をやった。おはしをつる方も、ひざ車も練習して、上手に返す練習をした。	常にポイント意識して練習
2/3	今日はけす固めから横四方回めの練習をした。「大腰」を中心に練習をした。この練習は、なかなか返すのが難しいので、集中して練習した。	テスト練習
2/6	自分の中では一番よく返すようになった。やれている時でも、相手が腕をひかすのは、技として返すのが難しく、返すのが難しい。	けす固め→横四方回め の1本だけテスト
2/19	返すのが難しく、しんどい。頭を上げて受け身を返すのが難しい。返すのが難しく、相手をし、腕をひかすのは、返すのが難しいので、返すのが難しい。	大腰のテスト 受け身に近づいて、その責任を！
2/13	評価がよくなったので、返すのが難しく、返すのが難しい。再テストでも、相手に返すのが難しく、返すのが難しいので、返すのが難しい。	再テスト

生徒には毎回の授業を振り返ってもらい、具体的に学んだことや感じたことを記入させた

- ② 生徒の実態に合った、細かく分かりやすい指導ができ、安全に授業を進められ、なおかつ生徒の技能が高まった。
  - ③ 生徒だけでなく、指導経験が浅い教員にとっても、指導方法や技術を学ぶ良い機会となった。
- (2) 課題
- ① 補助者と連携を図るために、授業前・授業後に打ち合わせを行う必要があり、その時間を他の職務と併行して確保すること。
  - ② 女子生徒を指導するにあたり、より細かい技術指導を行うためにも、25年度は、女性の指導補助者に来ていただいたが、学校や生徒の実態、ニーズに合った補助者を確保すること。
  - ③ 教科担当教員の補助として技の模範や助言等を行うことを基本にしている補助者の特性上、どのように活用をすれば良いかという関与の在り方に関する課題。
  - ④ 単元設定時期が体育科のカリキュラムの構成上、どうしても冬季になることで学習意欲の触発と怪我の懸念があること。